

「食育推進のつどい」概要

- 1 日 時 令和8年6月18日（木曜日） 13:15～15:15
- 2 会 場 金沢広坂合同庁舎 1階 共用大会議室
- 3 内 容 第1部 第5回北陸農政局食育活動表彰 表彰状授与式
第2部 北陸農政局長賞受賞者の活動紹介及び意見交換会
- 4 開催方法 第2部は、会場からオンライン（Microsoft Teams）により配信
- 5 出席者 第5回北陸農政局食育活動表彰 北陸農政局長賞受賞者
新潟県 株式会社 アルビレックス新潟
新潟県 新潟県立高田農業高等学校 生物資源科・農業生産コース
富山県 一般社団法人 とやまのめ
福井県 野路 直美
福井県 有限会社 かみなか農楽舎
北陸農政局
北陸農政局長ほか
- 6 参加者数 オンライン視聴回線数 52回線
- 7 概 要

（1）第1部 第5回北陸農政局食育活動表彰 表彰状授与式

管内（新潟県、富山県、石川県、福井県）の優れた取組を行っている食育関係者を表彰し、その活動を広く紹介することにより、北陸地域における食育活動を推進。

第5回北陸農政局食育活動表彰 表彰状授与式において4団体1個人に対し、植野局長から北陸農政局長賞を授与。



式辞を述べる植野局長



北陸農政局長賞受賞者記念撮影

(2) 第2部 北陸農政局長賞受賞者の活動紹介及び意見交換会
北陸農政局長賞受賞者の活動紹介及び意見交換を実施。

①活動紹介

○株式会社 アルビレックス新潟



株式会社アルビレックス新潟では、プロサッカークラブとして地域の活性化や社会課題の解決に取り組んでいる。その一環として、新潟市と連携し、2024年度から「アルビ de 食育・健康づくり」を推進。本事業では、朝食の欠食や偏食、肥満傾向、食塩摂取量の多さといった地域の健康課題の改善を目指し、選手が出演する食育動

画の配信や学校教材の制作、「アルビ de 給食」の実施、学校訪問による食育授業などを展開。また、農業体験や調理実習、減塩啓発活動、レシピコンテストなど、市民が参加できる取組も実施。スポーツの持つ発信力を生かし、食や健康について学び、実践するきっかけを提供することで、市民一人ひとりの健康づくりと食育の推進に貢献している。

○新潟県立高田農業高等学校 生物資源科・農業生産コース



平成 29 年から近隣のこども園と連携し、園児を対象とした食育活動を継続している。サツマイモやスイカの栽培では、生徒が園児と一緒に苗の定植や収穫を行い、焼き芋パーティーなどの交流を通じて、育てる喜びや食べる楽しさを伝えている。また、子どもたちが楽しみながら食への関心を深められるよう、食育クイズや紙芝居、オ

リジナル食育絵本の制作・読み聞かせにも取り組んでおり、これまでに制作した絵本は、市内の保育施設や図書館、JA 新潟中央会へ寄贈され、多くの子どもたちに親しまれている。栽培体験と学習活動を組み合わせた取組を通じて、食の大切さや感謝の心を育み、子どもたちの健やかな成長につながる食育活動を推進している。

○一般社団法人 とやまのめ



築 100 年の古民家と耕作放棄地を活用し、地域住民とともに農業を通じた食育活動を行っている。畑を舞台にした「アグリスポーツ」では、スポーツと農業を組み合わせ、子どもたちが楽しみながら野菜づくりや食の大切さを学ぶ機会を提供。また、育てた野菜の販売体験や規格外野菜の活用、高校生と連携したウニ養殖プロジェクト

などを通じて、食と環境のつながりを学ぶ実践的な食育を展開。さらに、後継者不足により継承が困難となったスプラウト農園を引き継ぎ、若い世代による農業にも挑戦。地域の農業や食の魅力を次世代へつなぐ活動を続けている。

○野路 直美



「食べることは生きること」をテーマに、管理栄養士と農業者の視点を生かした食育活動に取り組んでいる。

福井県内で親子料理教室や子ども向け料理教室、味覚教育、健康づくり講座などを行い、食の楽しさや大切さを伝えている。また、農園では田植えや稲刈り、野菜の収穫体験のほか、大豆加工やそば打ち体験など、生産から

食卓までを体験できる機会を提供。さらに、収穫した農産物を使った調理実習や米粉菓子づくりを通じて、食材を無駄なく活用する工夫や、生産者への感謝の気持ちを育んでいる。「育てる・収穫する・調理する・食べる」を一体的に体験することで、食への関心を高め、食の楽しさや命の大切さを伝える活動を続けている。

○有限会社 かみなか農楽舎



子どもたちが食と農のつながりを体験的に学べる食育活動に取り組んでいる。小学生を対象に、田植えや野菜の収穫、調理体験、農産物の販売体験などを年間を通じて実施し、生産から消費までの流れを実践的に学ぶ機会を提供。また、収穫した農産物を使った調理活動や、鶏・ヤギなどの飼育、しめ縄づくりなど、農村ならではの体験も

取り入れ、食べ物ができる過程や地域の食文化への理解を深めている。さらに、種ありブドウや土耕栽培のイチゴなど、作物本来の姿に触れる機会を通じて農業の魅力を伝えている。子どもたちの「やってみたい」という気持ちを大切にしながら、食への感謝の心や生きる力を育む食育活動を推進している。

②意見交換

意見交換は「学校等での食や農に関する学びの充実」をテーマに、子どもたちの食への関心や農業への理解を深めるための取組などについて、出席者から多くの意見や提案が寄せられた。

局次長はまとめとして、食や農に関する学びが子どもたちの理解や関心を深める上で重要であると述べるとともに、本日の意見交換でいただいた意見を今後の取組に生かしながら、食育のさらなる推進につなげていきたいと締めくくった。



意見交換会の様子